

令和6年度第1回岡崎市総合教育会議会議録

日 時 令和7年1月30日(木) 午後4時

場 所 岡崎市役所福祉会館2階201号室

出席者

岡崎市	内田市長
教育委員会	安藤教育長
	千野委員
	上原委員
	小森委員
	田口委員

議 題

- 1 「岡崎市32人学級プロジェクト」における対象学年の再検討について

報 告

- 1 「岡崎 GIGA スクール 2.0」構想について
- 2 岡崎市立中学校地域ブロック部活動の進め方「3段階プラン」(岡崎モデル)の進捗状況について
- 3 校内フリースクールF組・夜間学級S組の進捗状況について
- 4 未来の教室整備(大規模改修工事における普通教室の整備)の実施状況について

● 開会

内田市長よりはじめのあいさつ

● 議題1 「岡崎市32人学級プロジェクト」における対象学年の再検討について

— 資料1に基づき説明（小田教育監） —

【質疑・意見等】

・千野委員

国や県より充実した教育環境整備を、岡崎市が先駆的に取り組んできたことを評価している。3年生まで32人学級を拡充する計画が、1・2年生までで留めることは残念ではあるが、計画変更の主旨が教員の質の担保を重視しており、また、国の施策で35人学級が進められるようになったことから、岡崎市の計画変更は了承できる。今後も岡崎市は先駆的な教育環境を目指す姿勢を維持して欲しい。

・小森委員

授業を参観すると、教員が1人よりも2人で授業をするほうが、子ども1人ひとりに目が向けられることが明らかだった。教員の採用が難しい中で、特に3年間の任期付の条件では困難な実情は理解するが、創造的な授業の際は補助が入るとよい。教育実習生や市の職員で教員資格を有した人が補助するなど工夫をして、教育環境を充実することを期待する。

・千野委員

今後も市独自の取り組みを続けるために、岡崎市の教育がより魅力的に見える工夫が必要。

・田口委員

国の基準より充実した取り組みは素晴らしい。教員の質を保つための方針変更は、少人数学級の意義に沿うもので問題ない考える。

小森委員が先述のとおり、教員が2人いると授業の質が向上するので、可能であれば、短時間でも講師を学校に割り振り、教員が2人になる時間を増やすとよいと思う。今後取り組みを進めながら6年生まで広げられるとよい。

採用は民間企業も厳しい状況のため、工夫が必要。

・上原委員

受験率の向上が必要。

任期付きで採用された教員の岡崎でのキャリアがほかの地域でのPRになるような

先駆的な取り組みを続けてほしい。

（市長部局）

少人数学級のメリットは日本だけでなくアメリカでも実証されており、可能な限り理想を実現したいが、財政面も踏まえて、対象学年の拡大を保留することとなった。今後は少子化も考慮し、引き続き検討をする。

● 報告 1 「岡崎 GIGA スクール 2.0」構想について

— 資料 2 に基づき説明（二村教育部長） —

【質疑・意見等】

・千野委員

岡崎市は全国に先駆けてタブレット端末も電子黒板もスムーズに導入した。授業を参観した際、教師の使いこなしも素晴らしかった。今後も先駆けた環境を維持されたい。

タブレット端末を活用するために、電子黒板とセットで導入することが望ましい。現状、小学校 2 年生以上は整備されているが、1 年生の電子黒板は整備されていない。1 年生は動画や資料をよく使う学年であるため、導入を進めていただきたい。

iPad の最新 OS が入らない端末があることは課題。最新 OS が入らない機器は処分をする地域もある。ソフトやアプリが OS に対応せず使えなくなることもあるので、国の補助を活用して更新を進められたい。

（教育委員会事務局）

いただいたご意見を参考にしながら、更新を検討していきたい。

・上原委員

タブレット端末等の導入により、これまでやりたくてもできなかったことができるようになった。例えば、地域を超えてつながることなど、子どものグローバル的な資質を育てることに役立っていると評価している。

一方でタブレットを使う頻度が増えたことで目が悪くなった等の影響があるのか。

（教育委員会事務局）

子どもの視力は年々低下傾向にある。タブレット導入により極端に下がったということはないが、これまでどおり少しずつ低下しており、状況について注視していく。

・田口委員

六名小学校の授業を参観したが、1 年生からタブレットを使用しているためか、覚えようと思わなくても使いこなしている。いち早く取り入れた成果だと思う。

タブレットを使うことで、姿勢の悪さが常態化してしまい、猫背傾向になることが心

配される。

（教育委員会事務局）

授業を参観した際、同様のことを感じた。子ども達の姿勢については視力にも繋がるので、正しい姿勢で授業に臨めるように取り組んでいく。

● 報告 2 岡崎市立中学校地域ブロック部活動の進め方「3段階プラン」(岡崎モデル)の進捗状況について

— 資料 3 に基づき説明（小田教育監） —

【質疑・意見等】

・ 上原委員

良い形で進んでいると思う。

他県で、活動場所が限られてしまい希望の部活動に入れない事例があった。

岡崎市では希望の部活に入れない事例は生じているのか。

（教育委員会事務局）

現在の段階では希望通り入部できている。

今後も子ども達の希望に沿うように対応したい。

・ 千野委員

平日 17 時からだと授業後の移動が課題になるが、移動手段は何を使っているのか。

（教育委員会事務局）

近ければ徒歩、中学生だと自転車が多い。

中央総合公園で実施している弓道は保護者の送迎なども必要になっている。

● 報告 3 校内フリースクール F 組・夜間学級 S 組の進捗状況について

— 資料 4 に基づき説明（小田教育監） —

【質疑・意見等】

・ 上原委員

先日勉強会で、子どもの認知特性に応じた学習の場づくりの必要性が増していると聞いた。平均的な子どもならバランスよく話す・聞く・読むことができ表現できるが、一般的な教育の場では、言葉で話すことが苦手な子どもの能力を十分に伸ばすことが難しい。そのため、特性にあったプログラムが必要とのことだった。

F 組 S 組がこれにあたる。F 組の取組みは全国的にも注目されているので、S 組も発

展させて、よい教育で全国を牽引するような取組みを岡崎から実施できるとよい。

（教育委員会事務局）

様々な特性や家庭環境をもった子どもがいる。個別に適切な支援ができるように、あたたかな支援員を配置してきたことで、子ども達の笑顔も増えている。今後の取組みを充実させていきたい。

・千野委員

不登校が全国的に増えてきている。不登校の子どもをもつ親が追い詰められ就業も上手くいかないといった社会問題に繋がっている。自分の学区の中学校に受け入れてもらえる仕組みがあることは、保護者への支援に繋がる。順調に続けていってほしい。

（教育委員会事務局）

保護者の安心感に配慮するように努めている。F組の保護者同士が話をできる機会をもったり、学校と一緒にになって児童生徒の過ごし方を考えたりすることで、保護者の安心感が子どもにも伝わり、子どもの安心感に繋がっていると感じる。

● 報告 4 未来の教室整備（大規模改修工事における普通教室の整備）の実施状況について

— 資料 5 に基づき説明（二村教育部長） —
意見なし

● 閉会